

南アルプスを世界自然遺産に

問い合わせ

総合支所企画観光課企画係 ☎ (58) 7077

◆南アルプス世界自然遺産登録推進協議会の賛助会員を募集します。

南アルプス世界自然遺産登録推進協議会では、自然遺産登録の推進に賛同し、協議会の活動をご支援してくださる、町内の個人・団体のみなさん（賛助会員）を募集します。

賛助会員には、現在、それぞれで行なっている南アルプスに関する活動を更に推進していただくとともに、世界遺産登録の実現に向け、協議会が行なう事業との連携を図っていただくこととなります。

なお、賛助会員に登録いただいても、経費の負担や総会などの会議への出席は不要です。

賛助会員の登録を希望される人は、総合支所企画観光課（☎58-7077）までご連絡をいただければ、「賛助会員登録申出書」を送付いたします。必要事項をご記入のうえ、平成19年6月29日（金）までにご返送ください。

なお、申出書は、役場ホームページからもダウンロードできます。<http://www.town.kawanehon.shizuoka.jp>

公営住宅の募集情報を公開中です

問い合わせ

本庁建設課管理係

☎ (56) 2227

総合支所事業課公共事業係

☎ (58) 7076

◆公営住宅の入居者募集情報を役場ホームページで公開しています。

役場ホームページで、町営住宅・特定公共賃貸住宅の情報（構造・間取り・床面積・建築年度）、空き状況と入居者募集のお知らせ、申込み資格などを掲載していますので、ご活用ください。

また、電話でも気軽に担当課までお問い合わせください。詳しくお知りになりたい人へは、入居者募集案内チラシやホームページ掲載用紙を配布します。



「つくだ煮の日」キャンペーンが実施されます。

佃煮は、小魚、貝類、野菜、海草などを、しょう油、水飴、砂糖を中心とした調味料で煮つめた日本古来の保存食品です（貝類にシヨウガを加えたものを時雨煮、ワカサギなどの小魚に水飴や砂糖を多めに加えたものを甘露煮ともいいます）。生まれは東京ですが、全国各地で、地元の水産物や農産物、畜産物を原料に、それぞれ郷土色豊かな佃煮

6月29日は
「つくだ煮の日」

ホットひと息
今月の記念日

が作られています。

佃煮はあまりに身近すぎて、普段の食卓で意識されることはあまりないでしょう。しかし、知らないうちにおにぎりにしているのが佃煮です。コンビニなどで人気のおにぎりでは、佃煮昆布の入ったおにぎりが必ずランキングの上位に入っています。普段意識しないけれど、子どもからお年寄りまでみんなが大好きな食べ物、それが佃煮です。昆布だけでなく、アサリやアミ、ノリ、小魚など種類も豊富です。

佃煮は保存性が高く、よく加熱されたものが多いので、安心して食べられます。佃煮は贈答品としても人気があります。既に江戸時代から、武士たちが江戸みやげとして持ち帰っていたそうです。

長い歴史を通して、日本の食生活に大切な役割を果たしてきた佃煮。グルメや飽食といわれる時代に、あらためて佃煮の良さが見直されています。

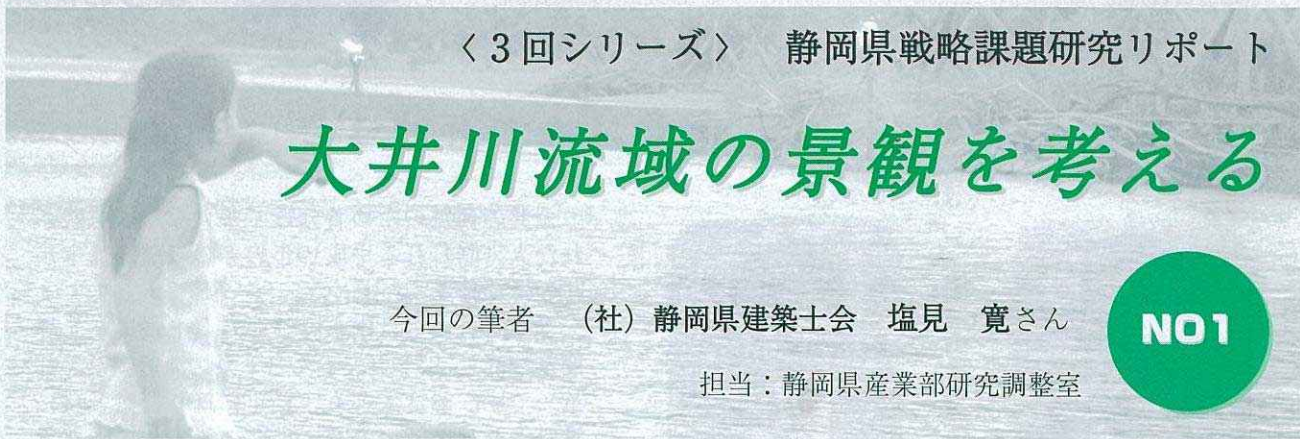
佃煮発祥の地の守り神として創建された東京・佃島の住吉神社大祭が6月29日であることや、「2」「9」の語呂合わせから、佃煮メーカーから組織される全国調理食品工業協同組合が平成16年に制定しました。毎年「つくだ煮の日」を含む6月には、販売促進の一環として佃煮メーカーによる「つくだ煮の日」キャンペーンが実施されます。

大井川流域の景観を考える

今回の筆者 (社) 静岡県建築士会 塩見 寛さん

NO1

担当：静岡県産業部研究調整室



県では「地域が誇れる景観」をつくるために、大井川中流域でモデル研究を行っています。

公募で選ばれた4研究機関の専門家の目で川根町、川根本町の素晴らしさ、個性、磨くべき原石を見つけ、これからの地域づくりに活かせる提案を目指し、研究活動に励んでいます。

今回から3回連続で研究者の声をお届けします。

◆研究機関..

京都府立大学・(独)森林総合研究所共同研究、(社)静岡県建築士会、県茶業研究センター

◆研究期間..
平成18年度～19年度

みんなで「景観育て」していきましょう！

(社) 静岡県建築士会 塩見寛

毎日の生活の中で見慣れた景色や風景は、同じように見えますから、普段は気にも留めませんが、外から来た者にとってはすごく興味をそそられることがあります。

静岡県建築士会は、川根町の7つの集落を中心に、遠くから眺める景色、集落の中や特徴的な場所の景観

など、視覚的な情景を調べ写真に撮り、どのように景観が構成されているのか、どのような経緯でつくられたものなのかなどを分析しています。

例えば：

◇ゴロタ石が茶畑の石垣や水路の側面と底面にも使われ、いたる所に見つけられること。

◇大根が干されたり、つるし柿の風景が何とも言えない懐かしさを感じさせること。

◇茶畑を背景に銀色に輝く火の見櫓がすくと立っている風景が美しいこと。

このような、言わば「よそ者」から見た感じ方を「地元の人」に示して話し合う機会をつくりたいと思っ



川根町家山 茶畑の石垣

ています。

両者の感じ方がどのように違っているのか、同じものもあるのかというやり取りを通して、住む場所の景観について共通の認識を持ちたいと思います。

そして、これからも住みやすい場所にしていくにはどのようにしたら良いか、そのしくみを地元の人たちと一緒に考えていきたいと思っています。

3月末に川根町抜里で地元の人たちと桜花見の会をもちました。

その時、大変良い話を聞くことができました。

「若い人たちが出て行くのは仕方ないけれど、一旦外に出てもまたここに帰っ



川根町抜里 桜花見の会

てきたいと思える場所になりたい。出て行った人が家族を連れて戻ってきて、その子どもたちがここで育ち、また出て行ってもまた帰ってくる。そういう所にしたきゃいかんと思ってるんですよ」

この話を聞いて私は正直に感動しました。

この研究は今年度で終わりますが、建築士会では、川根地域が「帰ってきたいと思える場所」であり続けるために、継続して地元のみなさんとともに取り組んでいきたいと思っています。

景観の担い手は地域のみなさんです。

その場所に住んでいると当たり前に見過ごしてしまう「風景の価値」を見直し、川根本町の景観について一緒に考えていきましょう。

町でもこの研究事業の成果を有意義に活用して「地域に誇れる景観」形成の施策に反映していきたいと考えます。

本庁企画環境課企画環境係

(56) 2221